

## 導入事例 株式会社 ジェイ エスキューブ 様

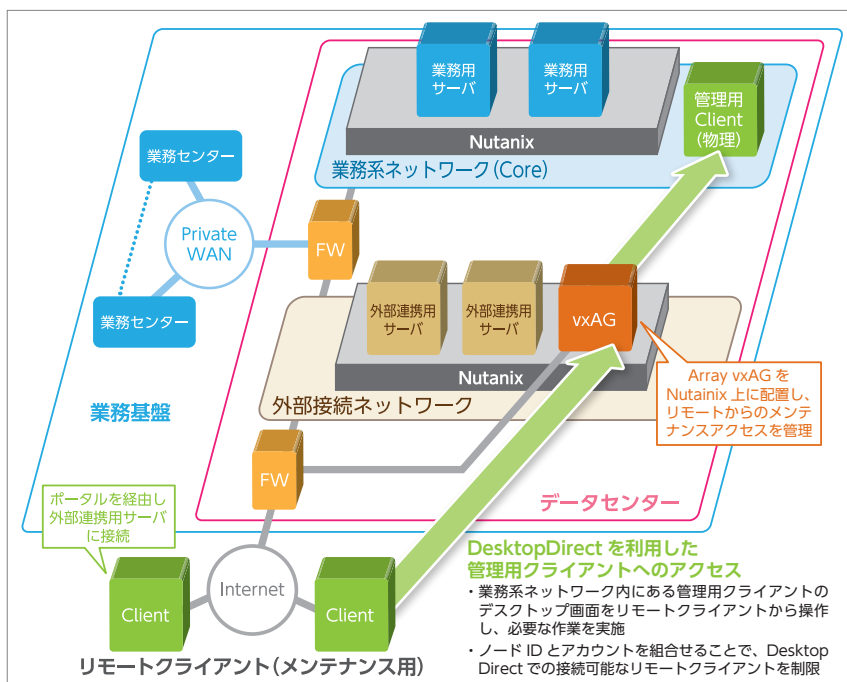
# J-SCube

BPO (Business Process Outsourcing) 事業、プロダクト販売・保守事業、人材派遣事業を展開しているジェイ エスキューブ。なかでも BPO 事業では金融、流通・物流、官公庁など幅広い分野の事務処理作業を受託している。そのドキュメントソリューション事業部では Nutanix 社のハイパーコンバインドインフラ (以下、HCI) 製品を用いたシステムを構築し、2016 年 5 月より業務基盤の集約を進めている。顧客あるいは BPO 案件ごとに分散しているサーバを、集中管理できる体制を整えることが主な目的だ。その運用の効率化とメンテナンス性向上のために、同社が活用しているのが、アレイ・ネットワークスの仮想セキュアアクセスゲートウェイ Array vxAG だ。

### Background

#### 案件ごとに異なる作業環境の確保と保守コストが課題

ジェイ エスキューブでは、書類や帳票などのフィジカルなデータのデジタル変換 (P2D: Physical to Digital) をはじめ、大容量の事務処理・バックオフィス業務を多数請け負っている。従来は案件を受注するたび、作業の規模にあわせたサーバや、顧客・パートナーとのデータ送受信に必要なネットワーク機器、ツール、ソフトウェアなどを確保し、BPO センターに作業環境をセッティングしていた。重要度の高い書類を外に持ち出すことが顧客に禁じられている場合には、顧客企業内にオンサイトセンターを設置することも多く、いずれのケースでもハードウェアの調達コストや保守の手間が問題となっていた。またセンターごとにサーバの管理基準が異なっていることも、解決すべ



“Array vxAG” を Nutanix 上で稼働させリモートアクセスを提供。アクセス対象および用途に応じて、ポータル経由接続、“DesktopDirect” 機能 (DD) を使い分ける。

“Array vxAG” 仮想セキュアアクセスゲートウェイは、“Nutanix Ready AHV” に認定されています

#### Industry:

- ・ ビジネス・プロセス・アウトソーシング事業

#### Challenges:

- ・ Nutanixの活用
- ・ リモートアクセスによる運用・保守環境の確立
- ・ SSL接続を利用した付加価値的サービスの展開

#### Solution:

- ・ 仮想セキュアゲートウェアブライアンスArray vxAGのSSL-VPNリモートアクセス

#### Benefits:

- ・ ネットワーク接続できるモバイルPCがあれば、どこにいてもNutanix等の運用・保守が可能となり、メンテナンス作業の省力化や迅速化が実現
- ・ SSL-VPNによるデータ連携サービスや作業進捗率の確認サービスなどを検討中

き課題だった。

そこで同社では、仮想化による業務基盤の統一化を模索しはじめた。しかし旧来の3層インフラ(仮想サーバ= SANスイッチ=共有ストレージ)を組むとすると、コスト面での不安は解消しきれない。ジェイ エスキューブのドキュメントソリューション事業部 システム技術本部の井上宗弘氏はこう語る。

「その頃出向いたイベントに Nutanix 製品が出展されていて、選択肢のひとつとして検討をはじめました。Nutanix で HCI を構築すれば初期コストを抑えつつ、拡張性も確保できると考えたのです」

最後まで懸念として残っていたハイパーバイザーのライセンス料の問題も、Acropolis Hypervisor (Nutanix 独自の無償ハイパーバイザー)の採用で解消した。

## Challenges

### モバイル PC からのリモートアクセス実現へ

Nutanix の導入にあわせ、ネットワーク接続の手段についても検討が進められた。Web サイト経由で行われる顧客やパートナーとのやり取りには、従来通り物理ルータを利用して構築した VPN がそのまま使われることになったが、ジェイ エスキューブでは HCI 導入を機に、これまでにはなかった " モバイルからサーバにリモートアクセスできる仕組み " をつくりたいと考えていた。その実現のために同社が目指したのが、Array vxAG だった。SSL-VPN ゲートウェイの仮想アプライアンスとしてアレイ・ネットワークスが開発・提供する Array vxAG は、管理用リモートアクセス用途での採用実績も豊富な製品だ。

「アレイ製品として最初に知ったのはハードウェアアプライアンス型の Array AG でした。しかし、ハードウェアを増やすよりも、せつかく構築した仮想環境を活用したいと考え、仮想アプライアンスの vxAG を選択しました。選定当時 (2016 年)、アレイ・ネットワークスが vxAG の Acropolis Hypervisor への対応を進めていたこと (※) や、1 ヶ月単位のサブスクリプション形式でも提供されていたことも、採用決定の大きな理由でした」 (井上氏)

ジェイ エスキューブでは 2017 年 4 月から Array vxAG の利用を開始。新規案件向けの仮想マシン立ち上げやユーザーアカウントの発行、ソフトウェアのアップデートをはじめ、様々なリモートメンテナンスに、同製品による SSL-VPN 接続 (L3VPN によるトンネリング、Desktop Direct による管理用クライアントへのリモートデスクトップ接続など) を活用している。

(※) Array vxAG は同年、"Nutanix Ready: AHV" の認定を受けている。

## Solution and Results

### 統合仮想化基盤により 場所を問わない運用・保守作業が可能に

オンサイト / オフサイトの BPO センターにそれぞれサーバを導入していた頃は、障害が発生すれば井上氏らが現地へ赴いてサポートにあたらねばならないこともあったが、現在、Nutanix に集約されている仮想サーバについては、ほとんどすべての作業を SSL-VPN で接続したモバイル PC から、ロケーションフリーで行えるようになった。メンテナ

ンスの効率化について井上氏はこう語る。

「まずサーバの立ち上げが非常に楽になりました。以前は機器の手配から運用の開始まで 2 ヶ月近くを要し、しかも安定稼働させるまでは現地に 1 ~ 2 週間ほど詰め作業をしなければなりません。今はネットワークさえつながれば、立ち上げもその後のサポートも、場所や時間を問わずに行えます」

Nutanix を用いた統合仮想化基盤と、Array vxAG で実現したセキュアアクセスにより、ハードウェアの調達にかかるコストも時間も、さらにサーバ設定時の労力も大幅に削減した。新規サーバ立ち上げまでの期間はおよそ半分になり、システム技術部の人的負荷も軽減できているという。

また統合基盤を得たことで、サーバ管理基準の統一化という課題もクリアした。デバイス制御の範囲やウイルス対策ソフトの更新頻度、案件ごとにドメインをつけるかワークグループでまとめるかなど、センターごとに異なっていた基準は、今後すべて統一され、集中管理ができる体制づくりが進められていく予定だ。Nutanix 環境への集約は、新規案件の受注や BPO センターでのサーバリプレイスのタイミングで徐々に行われており、すでに約 5 割が完了しているという。

## Benefits

### SSL-VPN を利用し、BPO 事業にさらなる付加価値を

BPO 業務に HCI と SSL-VPN を導入することで、基盤の調達・運用にかかるコストや手間を削減し、拡張性をも獲得したジェイ エスキューブ。同社では将来的に、現在は主にリモートメンテナンスに利用している SSL-VPN を顧客やパートナー企業にも提供し、同社の BPO 業務に新たな価値をプラスすることを検討している。

「たとえば vxAG 経由で当社の外部連携用サーバに接続していただき、データの連携を容易に行えるようにしたり、当社にご依頼くださっている作業の進捗状況を、お客様にオンラインでご確認いただけるような仕組みをつくったりすることを考えています」 (井上氏)

Nutanix の運用開始から約 1 年。Array vxAG 導入からはまだ数ヶ月だが、すでにその効果を実感しているジェイ エスキューブが、新たなインフラに掛ける期待は大きい。

## Summary

### まとめ

仮想セキュアゲートウェイアプライアンス Array vxAG は、Nutanix の無償ハイパーバイザー Acropolis Hypervisor をサポートしており、SSL 接続によるリモートアクセスを実現、安全性確保に貢献する。HCI 環境構築に Nutanix と Acropolis Hypervisor を採用したジェイ エスキューブでは、Array vxAG が提供する SSL 接続を利用し、モバイル PC から Nutanix にリモートアクセスできる仕組みを整えた。これにより同社のビジネスの伸張状況に合わせた仮想サーバの新設・削除や、日々のメンテナンスといった運用・保守作業が場所や時間を問わずに実施できるようになり、省力化も実現した。さらに将来的には SSL-VPN を顧客やパートナーにも提供、データ連携や作業の進捗状況チェックに使えるようにしていきたいと考えている。